

冬葱

ふゆ
あかね



わずかに黄みを帯びた、茜色に染まった冬の夕焼けのことを言います。

気温が冷え、空気の澄んだ冬空で光る沈みゆく太陽が美しい。

冬の太陽はあつという間に沈んでしまうため、この時期の夕焼け空は長くなく、儂さや寂しさも少し感じます。

深みのあるオレンジ色の夕焼け、畑で冷えたねぎたちが少し温まったような色合いに。



凍害による黄化が目立つ畑もありますが、定期的に葉面追肥などのケアを行うことで品質劣化を防いでいます。ねぎも霜焼けで弱っているようなので、調整に時間もかかります。

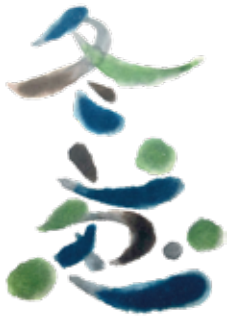
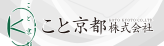
古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.189

2023年2月号

TEL: 075-601-0668



今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

期待の苗から立派に成長した冬葱のお届け

主に京都市で収穫したねぎをお届けします。9月から10月頃に定植したねぎで、この時期の苗作りは暑い8月を過ごす為、1年でも一番難しく、毎年苦勞しています。難しい状況でも、農人たちのこまめなケアに苗も応えてくれてくれていると思えるほど、良い苗を作ることができ植えられたなあと思ひ返します。



12月上旬頃は比較的あたたかな気候ですくすくと育ち、その後一気に冷え込んだ中で甘みを蓄えた冬葱たちです。引き続き、冬だからこそその味わいをお楽しみください。

農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信



剥がす作業に比べて、覆う作業には時間がかかります。そのため、次の日が寒い予報の時は急いでビニールを覆わないといけません。農人一同、力を合わせて1日で10圃場以上も作業をすることもあります。終わったあと手袋を外すと指先が赤くなっていたり、マメができていても。そういった欠かせない地道な作業を経て大事に育てたねぎ今月もお届けしています。

寒空の下で黙々と行う冬の作業

この時期は寒さからねぎを守るために、ビニールの被覆をしている畑が多くあります。京都盆地での厳しい寒さにはとても有効なビニール被覆ですが、収穫までには定期的に被覆を剥がして、また覆う作業をする必要があります。主に、雨の前にビニールを開けてねぎたちに直接水分を与えるためと、ビニールの中は湿度も高くなり病気になるってしまう原因になることがあるので、葉や栄養を与えるために被覆を開ける作業をしています。



とある日の農人日記。

被覆開けを行った圃場にて、ねぎの様子を見回することで病気の初期症状が発見することが出来ました。また、土が良ければ防除などもせずに済む場合もあるので、地力を高める土づくりを更に意識していこうと思ひました。(市内エリア・甲斐)



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。